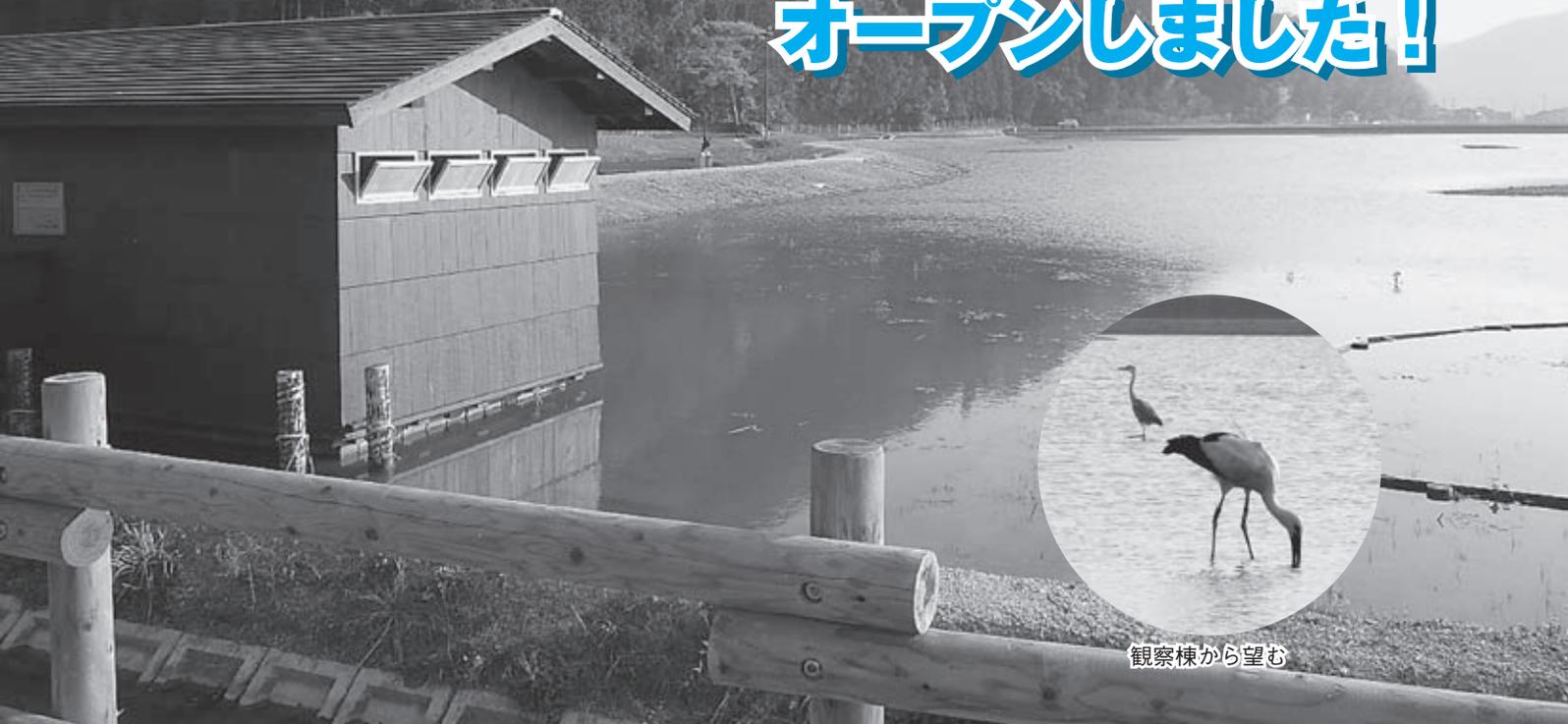


ハチゴロウの戸島湿地が オープンしました!



観察棟から望む

▲コウノトリなどが舞い降りることのできるハチゴロウの戸島湿地

4月2日、「ハチゴロウの戸島湿地」が城崎町戸島(円山川右岸側)にオープンしました。

この施設は、コウノトリが舞い降りる豊かな湿地環境を保全し、その姿を間近で感じることで、コウノトリも住める豊かな環境や、人と自然の共生への理解を深めるために設置したものです。淡水湿地や汽水湿地のほか、管理棟や野鳥観察棟などを備え、湿地を体感いただけるよう工夫しています。その全容を紹介します。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

【なぜ“ハチゴロウ”なの?】

土地改良の順番を待つ戸島の水田に、野生コウノトリのハチゴロウ(平成14年8月5日に豊岡に飛来)が舞い降り、そのことが湿地整備のきっかけとなりました。コウノトリ野生復帰事業の道しるべとなり、戸島湿地を見出した功績を留めおくため、今は亡き「ハチゴロウ」の名を湿地に冠することにしました。



▲戸島湿地に飛来したハチゴロウ(平成17年初夏)

●戸島という場所

城崎温泉街の円山川対岸に位置するこの場所は、水田でありながら、水はけの悪さから秋冬には多数の野鳥でにぎわい、もともと湿地としての機能を有していました。

また、一帯には山・川・湾、淡水・湧水・汽水などの異なる自然環境がコンパクトにまとまっており、さまざまな動植物を育む生物多様性の宝庫です。

●湿地整備の動き

自然の力(立地条件)と人の営み(農林水産業)によって形づくられ、受け継がれてきた貴重な環境。コウノトリ野生復帰事業を進める上で、

こうした固有の資源を守り、さらに充実させようという動きが生まれました。

また、有識者や住民代表による委員会での湿地整備基本構想・基本計画をまとめ、県と市が共同で湿地の整備を進めてきました。

●多面的な活用を

整備後は市の施設として管理し、①「円山川下流域におけるコウノトリの生息拠点」、②「湿地管理技術の確立に向けた実践の場」、③「環境学習や観光の拠点」としてなど、多面的に活用していきます。市を代表するスポットがまた1つ増えました。ぜひ、来場ください。

ハチゴロウの戸島湿地はこんなところです。

河川勾配が緩やかでゆったりと流れる円山川。周囲を山々に囲まれた静かな入り江の楽々浦湾。円山川下流域独特の美しい景観の中に、ハチゴロウの戸島湿地があります。

海・河川・潟・水田・山が隣接した生態系の見本市です。

ハチゴロウの戸島湿地の管理運営、環境教育、観光などの拠点施設。湿地を一望しながらコウノトリや豊岡の自然について学ぶことができます。



▲湿地を見渡す管理棟

里山を背に、豊かな湿地に囲まれた人工巣塔。(城崎町商工会青年部OB寄贈)

平成19年9月設置。平成20年から、コウノトリが繁殖に利用しています。



▲すくすくと育つヒナたち

野鳥観察棟

湿地水面に浮かぶユニークな構造の観察棟。観察窓を細くして、湿地に舞い降りるコウノトリなど水鳥への負担を軽減するとともに、湿地に浮かぶ感覚を楽しみながら、間近でじっくりと観察することができます。



▲ブカブカと湿地に浮かぶ野鳥観察棟

汽水湿地～仕切堤防～淡水湿地



▲大ナマズを食べるハチゴロウ

楽々浦湾とつながる汽水湿地は、広さ約0.7ha。農業用水として利用することもできる淡水湿地は広さ約2.5ha。潮の干満を利用して、従来からさまざまな生きものが水路を通じて円山川と田んぼの間を行き来していました。これまでの調査では、コウノトリが餌として好むナマズ・コイ・フナ・ハゼのほか、たくさんの魚類の遡上が確認されており、繁殖の場としても機能しています。水深はコウノトリが採餌しやすい15cmを基本としながら調節を行い、深みや飛洲等で多様な環境を創出します。

起伏ゲート



▲国内初！魚道＋起伏ゲート

汽水湿地と淡水湿地をつなぐ魚道の役割を果たす水門。フロート（浮き）とゲートが一体化しています。潮の干満により、汽水域の水位が上がればゲートが起き上がって汽水を遮断し、下がればゲートが倒れて淡水域から真水が越流します。したがって、汽水湿地から淡水湿地へ潮水が逆流することはなく、逆に、魚類など湿地の生きものは、淡水湿地から越流する水を渡って汽水域から淡水域へ遡上することができます。仕切堤防内に2基設置しています。

山際湿地

湧水等を利用した山際の小規模湿地も、生きものの生息を支えています。「末期（まつご）の水」と呼ばれるこの場所の湧水は、地元で昔から大切にされてきました。汽水が入り込む土地柄、湧き水はとても貴重なものでした。

湿地は、これまで「あまり価値のないもの」と見なされ、開発の波にさらされ続けてきました。たくさんの生きものや命を育む湿地の価値をもう一度見つめ直し、人間が手を添えながらその力を最大限に引き出す。この場所で「湿地」に新たな命を吹き込みたいと考えています。

コウノトリのペア営巢中！

湿地内の人工巣塔には、すでにコウノトリのペアが営巢中。3羽のヒナを育てています。

このペアは、昨年、同じ巣塔で3羽を巣立たせた実績があります。6月上旬と見込まれる巣立ちまで、エサを運び、子育てをするコウノトリの姿がご覧いただけます。一緒に応援しましょう！※市ホームページのライブカメラから映像がご覧いただけます。



(県立コウノトリの郷公園提供)

指定管理者からあいさつ

湿地の管理は、市が指定する指定管理者が行います。昨年10月に募集を行い、市議会の議決を経て、市内の団体「コウノトリ湿地ネット」を管理者として指定しました。

戸島で農業を営んできた先祖たちは、刈り取った稲を田舟で運ぶしかないジル田（湿田）を大切に守ってきました。乾田化のための土地改良は地元にとって待望の事業でしたが、平成16年台風23号の水害で工事は中断され、そこへハチゴロウが舞い降りました。

ハチゴロウは、今日1杯のご飯よりも、未来へつないでいきたい大切なものに気付かせてくれました。湿地を管理運営していく中で、自然と共生することの大切さを多くの方々に伝えていきたいと思ひます。ぜひ、戸島湿地へお越しください。



コウノトリ湿地ネット代表 横田登代子さん

ハチゴロウの戸島湿地 (☎20-8560)

- ◇開場時間 午前9時～午後5時
- ◇休場日 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
- ◇入場料 無料(湿地の維持管理のためのワンコイン募金に協力ください)